Hamamatsu Museum of Musical Instruments
浜松市楽器博物館だより
No. 86
2014. 2. 20
本紙はホームページでも見ることができます。

オカリナの故郷イタリアから“元祖”オカリナ七重奏

２月２日（日）にオカリナの生まれ故郷、イタリアのボローニャ県ブドリオ市からブドリオ･オカリナ七重奏団 Gruppo Ocarinistico Budriese（通称ゴブ /G.O.B.）をお招きしてコンサートを開催しました。G.O.B. は世界で最も古く、有名なオカリナのアンサンブル。オカリナを発明したジュゼッペ･ドナーティが 1800 年代の中頃に結成し、メンバーが入れ替わりながらも、現在も活動を続けています。

このコンサートを行うきっかけは 2008 年ブドリオ･オカリナ博物館の館長で、G.O.B. のメンバーでもある、ファビオ･ガリアーニさんと当館の嶋館長との出会いでした。ファビオさんはオカリナ博物館と浜松市楽器博物館とで文化交流ができたらと嶋館長とお話されたそうです。それから 5 年が経ち、G.O.B. の初来日が実現しました。

オカリナは日本でも愛好家が多く、G.O.B. の生演奏を楽しみにしている方もとても多かったため、チケットは数日で完売。待ちに待ったコンサート当日は早くから長蛇の列となりました。

ブドリオではオカリナを七重奏で演奏するのが伝統的なスタイルだそうです。七重奏ではモーツァルト作曲「オペラ ドンジョバンニより『乙女たちよ、恋をするなら』」、ヴェルディ作曲「オペラ リゴレットより『美しい愛らしい娘よ』」といったオペラの名曲や「帰れソレントへ」「オーソレミオ」といったナポリ民謡などが演奏されました。2 つのオカリナとピアノというスタイルではピアソラ作曲の「リベルタンゴ」などが演奏され、会場は大いに盛り上がりました。

ファビオさんからは「この日本公演はオカリナにとって“歴史的第一歩”になります。私たちの演奏で皆さんが幸せな気持ちになっていただくことが私たちの目的です。」と言葉をいただきました。まさにこの日は会場にいるすべての人が幸せな気持ちになったのではないでしょうか。

1 曲ごとに大きな拍手が鳴り、最後の曲が終わっても拍手が鳴り止む気配はありませんでした。3 曲もアンコール演奏をしていただき、名残惜しみながらもコンサートは終演しました。イタリアらしい明るい音色で、心も軽やかになる演奏でした。

日　時：平成 26 年 2 月 2 日（日）18:00 ～ 19:30
会　場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
出　演：ブドリオ･オカリナ七重奏団 G.O.B.
フールヴィオ･カルパネリ、ファビオ･ガリアーニ、マルコ･ベントゥルッツォ、エミリアーノ･ベルナゴッツィ、ステファノ･ボルギ、ジャンニ･グロッシ、ジュリオ･ボンダネリ、ロベルト･ボナート（ピアノ）
入場者：257 人

ブドリオ・オカリナ博物館 ファビオ館長がレクチャー

今回、初来日したブドリオ・オカリナ七重奏団のコンサートは、浜松を含め 4 箇所で行われましたが、レクチャーは浜松のみで開催されました。コンサート同様多くのお客様が足を運んでくださいました。

講師はブドリオのオカリナ博物館館長のファビオ・ガリアーニさん。ブドリオやオカリナの歴史、ブドリオ・オカリナ七重奏団についてスライドを使いながらわかりやすくお話してくださいました。

ブドリオという町はイタリアの北部ボローニャの近くに位置し、平地で坂が少ないのが特徴です。小さな町で人口も 18000 人と多くはありませんが、とても歴史の古い町です。

1853 年、当時 17 歳だったジュゼッペ・ドナーティはレンガを作る釜の番をしていました。当時、土でできた鳥笛がおもちゃとしてとても人気がありましたが、鳥の形をしていたので演奏しにくかったそうです。そこでドナーティは演奏しやすい形に改良して生まれたのが「オカリナ」です。オカリナとはこの地域の方言で「小さなガチョウ」という意味です。最初はガチョウの形をした笛だったことからこのような呼び名になりました。

ドナーティは楽器を 1 つだけではなく 5 つの違うサイズでつくり、アンサンブルができるようにしました。そして、楽器の製作だけでなく、アンサンブルグループ Gruppo Ocarinistico Budriese (G.O.B.) をつくり、パリ、ロンドン、ウィーン、リスボンなどのヨーロッパの主要都市でコンサートを行いました。このコンサートが大変人気を博し、これをきっかけにオカリナはヨーロッパ中に知られることとなりました。当初は五重奏で始まったアンサンブルですが、六重奏、七重奏と形を変えていき、七重奏がブドリオでは伝統的なスタイルとして定着しているそうです。

G.O.B. は一時演奏を控えていた時代もあり、衰退の危機もありました。このままではG.O.B. がなくなってしまうと心配したブドリオ市がオカリナ学校を設立し、パオロ・スカッツィエーリさんに若い人の指導に当たるように指示しました。このときに弟子になったのが、現メンバーのファビオ・ガリアーニさんとジャンニ・グロッシさんです。現在では七重奏だけでなくピアノと 2 つのオカリナのトリオ演奏などにもチャレンジしています。

オカリナの製作はドナーティの後、2 代目チェザーリ・ヴィチネリに受け継がれます。ヴィチネリは G.O.B. のメンバーでもありましたが、オカリナのストラディバリウスと呼ばれるほどの素晴らしい楽器を製作したことでも知られています。

当館に展示しているヴィチネリ作のオカリナ

当館にはブドリオのオカリナ博物館から友好の証として寄贈していただいたヴィチネリ作の楽器が展示されています。オカリナ博物館は 1993 年に設立されました。ファビオさんはオカリナ博物館からいくつもの貴重な楽器を持ってきてくださいました。フタコブラクダのようにこぶがついたオカリナ、ピストン付きの変わったオカリナ、マイセン陶器のオカリナ、金属のオカリナなど 20 点ほどを展示し、レクチャー終了後には多くのお客様がつめかけ熱心に見学されていました。

ファビオ・ガリアーニ氏

今回の来日は楽器博物館だけでなく、オカリナ博物館にとっても歴史に残る一日だったのではないでしょうか。

日　時：平成 26 年 2 月 2 日（日）13:30 ～ 15:00
会　場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
講　師：ファビオ・ガリアーニ（ブドリオ・オカリナ博物館館長）
受講者：215 人

可愛さが魅力～オカリナの仲間たち～容器の笛　館長 嶋和彦

さて、オカリナで盛り上がったところで、もうひとつ、オカリナのお話をいたしましょう。

「オカリナ」言いますと、当然皆さんがよく知っているあの形と構造の笛のことを指すのですが、今では、同じ構造のいろいろな形の楽器をすべて「オカリナ」と呼ぶことが一般的ですね。

オカリナは、楽器の分類上は、容器笛（Vessel Flute）というものです。管楽器である笛は、普通は細長い管があって、一方の端から息を入れて音を鳴らし、もう一方の端から息が出る、という構造です。指で押さえて音の高さを帰る孔（指孔）がついていますが、指で全部の孔を塞いでも、管の端からは息が出るようになっています。

ところが、管ではない笛、というものがあるのです。たとえば、スポーツで使うホイッスル（呼子）。これは息を吹き込む孔と音が出る孔がありますが、他に息だけが出る孔がありません。もっとわかりやすい例を言いますと、ビールやジュースの瓶。みなさんは飲んだ後の空の瓶の口に、自分の口をあてて息を吹き込んで、「ボーッ」と鳴らしたことありませんか？ これです。瓶の中に入った息（空気）は、瓶の底からは出られないでしょう。

なぜならば瓶は「容器」だからです。容器と言ってもお皿やお椀のように口が大きく開いていてはいけません。瓶のように口は小さくないといけません。このような笛の特徴は管状のものに比べて、音域は

狭いのですが、音が低く、こもった柔らかな温かい音がすることでしょう。これが容器笛の魅力であり、日本人がオカリナを好きなのも、そんなところからかもしれません。

そしてもうひとつの特徴は、容器であること、つまり、内部が空洞であることさえ守れば、どのような形にでも色にでもできるし、彫刻してもいいということです。メキシコには古くから亀や戦士や蛇などの形をした土の笛があります。これはまさにオカリナ。日本の鳩笛もそうです。日本には弥生時代には、発音構造は少し違いますがけ「塤（けん）」という卵形の土笛がありました。そして現在、日本や台湾などでは猫や魚、楽器、果物等々、いろいろな形のオカリナが作られています。演奏しなくても、飾っておくだけでも可愛くて人気者なのです。

ワークショップ「韓国の太鼓“チャンゴ”を演奏しよう！」

「チャンゴ」は、韓国の伝統的な太鼓です。見た目は、日本の鼓に似ていますが、両手で異なるバチを使って両面を鳴らすので、片面ずつ出る音が違います。講師は韓国の民族音楽院日本支局長を務めるリチャンソプさんです。バチの持ち方や音楽構成を丁寧に解説して頂きました。韓国音楽のリズムは100 種類以上もあるそうですが、今回は初心者でも演奏しやすい『チュンモリ』と『フィモリ』というリズムに挑戦しました。また、体験だけでなく、講師による演奏ではチャンゴひとつで繰り広げられる迫力ある演奏を聴くことができました。また、チャンゴの他にも韓国の伝統楽器である「プク」、「チン」、「ケンガリ」も体験することができました。受講者は、アンサンブル「サムルノリ」を楽しみ、韓国の伝統文化を堪能しました。

日　時：平成 26 年 2 月 16 日（日）13：30 ～ 16：00
会　場：アクトシティ浜松 研修交流センター
講　師：リチャンソプ
参加者：7 人

楽器博物館友の会コンサート「16 ～ 17 世紀のイタリア音楽」

平成 24 年度文化庁芸術祭レコード部門大賞受賞の記念として、楽器博物館友の会より、徳持耕一郎さんによる鉄筋彫刻 2 作品を寄贈いただきました。ありがとうございました。

楽器博物館友の会は、博物館を応援してくださる市民の方が中心となって平成 14 年に発足した会です。会員数は現在、個人 268 名・賛助会員 8 団体で、当館活動への積極的な参加のほか、年に 2 回のコンサートや学芸員との交流会開催、会報の発行等の活動を行なっています。

先日 2 月 15 日（土）、天空ホールにて友の会主催のコンサートが開催されました。世界的チェンバロ奏者の中野振一郎さんが当館所蔵のチェンバロ（1646 年、フィレンツェ製）を使って、ヴァイオリンの上野美科さんとの共演で、16 世紀から 17 世紀にかけてのイタリア音楽を演奏しました。400 年前のイタリア貴族たちが聴いていた音楽を現代の日本で、しかも当時の楽器の演奏で聴くというのは、浜松市楽器博物館でしかできない貴重な体験です。集まった約 100 名の会員の方々は大変熱心に聴き入って楽しんでいました。

楽器博物館を愛し、応援してくださる友の会の活動は、当館にとって大変心強い支えとなっています。当館を訪れたことをきっかけに世界の音楽や文化に興味を持った方には、友の会にご入会いただくことで楽器と音楽についてさらに学びや交流を深め、当館を生涯学習の場として大いに活用していただけたら幸いです。

日　時：平成 26 年 2 月 15 日（土）18:00 ～ 19:30
会　場：楽器博物館 天空ホール
出　演：中野振一郎（チェンバロ）、上野美科（ヴァイオリン）
入場者：107 人

博物館日誌

2/2（日）レクチャー
「オカリナの故郷イタリアから “元祖” オカリナ七重奏」
13:30　音楽工房ホール
講師：ファビオ・ガリアーニ（ブドリオ・オカリナ博物館館長）
受講者：215 人
レクチャーコンサート
「オカリナの故郷イタリアから “元祖” オカリナ七重奏」
18:00　音楽工房ホール
出演：ブドリオ・オカリナ七重奏団 G.O.B.
入場者：257 人

2/15（土）楽器博物館友の会コンサート
「16 ～ 17 世紀のイタリア音楽」 18:00　天空ホール
出演：中野振一郎、上野美科　　入場者：107 人

2/16（日）ワークショップ
「韓国の太鼓 “チャンゴ” を演奏しよう！」
13:30　研修交流センター 37 音楽セミナー室
講師：リチャンソプ　　参加者：7 人

浜松市楽器博物館だより
平成 26 年 2 月 20 日発行　No.86　　編集　浜松市楽器博物館
〒430-7790　浜松市中区中央 3－9－1
TEL 053-451-1128　FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp　URL http://www.gakkihaku.jp/

これからの催し物

●展示室ガイドツアー　毎日曜日　展示品の解説
※催し物により変更もあります。

●ギャラリートーク　毎日数回
展示品の解説を行います

●企画展
「切手に見る楽器たち～江波戸昭コレクション展～」
5/3（土）～ 6/1（日）

●レクチャーコンサート
「竪琴伝説 ～ルネサンスハープの世界～」
4/11（金）　19:00　天空ホール　出演：西山まりえ
「伝統から現代へ ～フラメンコギター～」
5/14（水）　19:00　天空ホール
出演：鈴木尚、金田豊、容昌
「京・響・雅～柳川三味線～」
5/24（土）　14:00　音楽工房ホール
出演：林美音子、林美恵子

●ミュージアムサロン　天空ホール　13:30、15:00
5/3（土）「中国の中阮」 出演：タン・ソク・ティエン
5/4（日）「アルパ」 出演：長島忠之 ほか
5/5（月）「ムビラとコラ」 出演：三木まさよ